

2025 年度 第 2 回教育課程編成委員会(情報ビジネス科)議事録

会議概要

- 名称: 2025 年度 第 2 回教育課程編成委員会(情報ビジネス科)
 - 日時: 2026 年 3 月 10 日(火) 15 時 00 分～16 時 00 分
 - 場所: YIC 情報ビジネス専門学校(YIC Studio) 2 階 応接室、オンライン
 - 出席者:
 - 外部委員:
 - 阿部 誉久 様
(山口商工会議所 広域ビジネスサポートセンター センター長)
 - 伊藤 恵一 様
(株式会社きらら 代表取締役)
 - 学校関係者:
 - 河津 道正(校長)
 - 小田 政江(副校長)
 - 三船 龍(事務長補佐)
 - 森野 茂弘(教務課長)
 - 豊田 菜摘(教務課長補佐)
 - 赤木 康二(情報ビジネス科 学科長)
-

議題別の議論詳細

1)校長挨拶

- 説明内容:
 - 2026 年 4 月入学生より、学科統合に伴い「情報デザイン科イノベーションコース」としてリニューアルする旨を報告。
 - 現在の情報ビジネス科 2 年生が卒業するまでは本委員会を継続するが、変則的な運用となる予定である。

2)委員紹介

- 出席委員の紹介が行われた。

3)2025 年度実績報告

- **説明内容(学科長:赤木):**

- **在籍状況(資料1):**2年生は10名全員が卒業。1年生は16名中1名が退学し、15名が進級予定。退学率は3.8%。
- **卒業生就職内定状況(資料1):**内定率100%(10名全員内定)。内定先には株式会社トヨタレンタリース山口(4名)や山口若宮病院などが含まれ、職種は接客や営業がメインとなっている。
- **検定試験実績(資料1):**
 - 1年生:Excel表計算処理技能認定試験2級(取得率86.6%)など、概ね目標を達成しており、例年より高い理解度を示している。
 - 2年生:ITパスポート試験(取得率0%)など、学習意欲や精神面の影響で取得率が伸び悩み、目標に届かなかった。
- **前回委員会の課題報告(資料2):**
 - **アントレプレナーシップ:**PBL入門にて「いちやなぎ(道の駅 仁保の郷)」の販促事例を学習。
 - **RESAS活用:**実証講座PBL入門にて、ウレコンやドルフィンアイの販売時点情報を活用。
 - **AI情報収集:**生成AIの授業をカリキュラムに設定。ヒューマンスキルとして思考法(ロジカル、クリエイティブ等)を導入した。
 - **Excelスキルの再検討:**Copilot(生成AI)との活用を検討中。
- **特別授業・企業連携(別紙1~3):**
 - **タンサン株式会社連携:**「何かを教えるゲーム」の開発(1年生)。
 - **山口県中小企業家同友会連携:**株式会社美東電子(しいたけPR)、株式会社中央寝装(睡眠の情報発信)の課題解決(2年生)。
 - **実証講座:**「地域産業研究(RESAS活用)」および「PBL入門(実データ分析)」を実施。データの視覚化や論理的提案のプロセスを学習した。

- **質疑応答・意見:**

- **阿部委員:**学校側がこのようなケーススタディに取り組む機会を設けていることは、学生にとって非常に良い機会である。今後は「誰のための解決か」という視点をさらに深めることで、思考の精度が上がると考える。山口県内には未解決の観光課題が多く、完璧な答えは出なくとも、その一助としての取り組みを期待する。
- **伊藤委員:**学生のこれからの人生を豊かにすることを教育のベースに置いてほしい。アントレプレナーシップの必要性については、脳の構造(習慣や特性)の観点から「なぜ挑戦が必要か」を教えるとより納得感が増すのではないか。また、データに基づいた思考の重要性については、特定のコンサルタントの事例を挙げ、感性や一般論に頼らない視点の教育を推奨する。
-

4)2026年度カリキュラム(案)

- 説明内容(学科長:赤木):
 - 情報デザイン科イノベーションコース(資料 3、4):
 - 単位制を導入し、卒業要件は 62 単位(イノベーション選択の場合)。
 - 1 年次前期に「ウェルビーイング概論」「デジタルシティズンシップ」「思考法」などの共通科目を設定。
 - 「生成 AI 活用」をカリキュラム化。専門業者提供の教材を活用し、AI の種類や倫理観を学ぶ。
 - PBL(課題解決型学習)を 2 年次の必修とし、企業連携によるデータ分析と提案力を養う。
 - 質疑応答・意見:
 - 伊藤委員(生成 AI について):AI の進化は非常に速く、プロンプトを一生懸命考える授業はすぐに形骸化する可能性がある。AI に自分の追い立ちや理念を教え込み、自分の個性を反映させた「パーソナル AI」として育てるフェーズに入っており、数年後にはそれを育てているか否かで大きな差が出るだろう。教育においても、AI を個人の分身としてどう活用するかが鍵になると考える。
 - 赤木学科長:高校生での AI 利用経験はまだ少ないのが現状だが、カリキュラムの中ではマーケティングやアイデア出しに AI を組み込む流れを作っている。社会の変化に合わせ、リスク管理も含めた活用方法を試行錯誤していきたい。
-

決定事項・承認事項

1. **2025 年度実績の承認:**就職内定率 100%の達成と、検定実績における課題(学年間の差)が共有され、承認された。
 2. **2026 年度カリキュラム(案)の承認:**情報デザイン科イノベーションコースへの改変、および「ウェルビーイング」「生成 AI 活用」などの新設科目を含む教育課程表が承認された。
 3. **理系転換実証講座の継続:**2026 年度も PBL 実証講座(6 月～9 月、15 コマ)を実施することが確認された。
-

今後の課題・次回予定

- 今後の課題:
 - 検定試験における目標達成率の向上、特に国家資格(IT パスポート等)の取得支援の強化。
 - 生成 AI の急速な進化に対応した授業内容の随時アップデート。
 - PBL における「データの裏付け」の強化(抽象的な表現からの脱却)。

- 次回予定:
 - 2026 年 9 月および 2027 年 2 月の開催を予定。